

検査項目		検査についての説明
生化	肝	
	総蛋白	血清(血液の上澄み)の中に含まれている蛋白量を調べる検査です。栄養不良や肝機能障害、ネフローゼ、重症糖尿病などで低値(低蛋白血症)を示し、脱水、慢性感染症、多発性骨髄腫などで高値(高蛋白血症)を示します。
	アルブミン	総蛋白の中で最も多量の成分で、血管内の水分の保持と各種物質(ビリルビン、尿酸、脂肪酸、カルシウムなど)の運搬に重要な働きをしています。栄養不良や肝機能障害、ネフローゼ、重症糖尿病などで低値(低蛋白血症)を示します。
	AST (GOT)	肝臓や心臓などの細胞中にある酵素で、細胞に障害が起こり破壊されると、血液中に流れ出し高値を示します。急性肝炎、肝硬変、肝癌、心筋梗塞などで高値を示します。
	ALT (GPT)	主として肝臓の細胞中にある酵素で、AST (GOT)と同じく、細胞に障害が起こり破壊されると、血液中に流れ出し高値を示します。慢性肝炎、脂肪肝の時はAST (GOT)より高値を示します。
	γ-GTP	肝臓や胆道の疾患、薬剤性肝障害で高値を示す酵素で、なかでもアルコール性肝障害に対して特異性の高い検査です。
	LDH	肝臓や心臓などいろいろな臓器細胞に含まれる酵素で、肝炎、心筋梗塞、癌、貧血、白血病で高値を示します。
	ALP	肝臓や骨、腸などにある酵素で、通常は肝臓から胆汁の中へ排出されますが、肝炎、肝硬変、胆石など肝臓や胆道に障害が起こった時に高値を示します。また、骨肉腫、癌の転移、クル病などの骨疾患でも高値を示します。
	CH-E	肝臓で造られる酵素で、肝硬変などの肝障害で、その合成量が減り低値を示します。ネフローゼ症候群、甲状腺機能亢進症では高値を示します。
	学	検査
総ビリルビン		ヘモグロビンが分解してできる黄色い色素で、胆汁の主成分です。肝臓、胆嚢、胆管に障害が起こると増加し、高値になると黄疸という症状になります。直接ビリルビンはビリルビンの成分のひとつで、主として胆汁の排泄障害があると上昇します。
直接ビリルビン		
血清アミラーゼ		膵臓や唾液腺などから分泌される酵素で、膵臓疾患(膵炎、膵癌)、唾液腺疾患、腹膜炎などで高値を示します。
検	脂	
	総コレステロール	血液中の脂質成分のひとつで、ステロイドホルモンの合成や血管の強化、維持に重要な働きをしている物質ですが、増加しすぎると動脈硬化をはじめとする生活習慣病の原因となるさまざまな障害を引き起こす要因となります。
	中性脂肪	脂肪の一種で、エネルギー源として重要な働きをしていますが、コレステロールと同様に増加しすぎると肥満、動脈硬化、糖尿病、心臓病などの生活習慣病の原因となります。
	HDLコレステロール	コレステロールの一種で、血管壁に付いた過剰なコレステロールを取り除く働きをする「善玉コレステロール」です。低値の場合、動脈硬化、高血圧、虚血性心疾患を起こしやすくなります。
査	LDLコレステロール	コレステロールの一種で「悪玉コレステロール」と呼ばれ、高値の場合、動脈硬化、高血圧、虚血性心疾患を起こしやすくなります。
	腎	
	尿酸	細胞の新陳代謝によってできる老廃物で、腎臓から尿中へ排泄されます。増加しすぎると尿酸塩という結晶が膝や足の指に沈着し、痛風といわれる炎症を起こします。肉類(魚肉も)やビールなどに多く含まれます。
	尿素窒素	タンパク質を栄養素として体が利用した後の老廃物で、腎臓から尿中へ排泄されます。腎不全などで腎機能が低下すると血中濃度が増加するため高値を示します。
能	クレアチニン	筋肉の中で使われたエネルギー源の老廃物で、腎臓から尿中へ排泄されます。尿素窒素と同じく、腎機能の低下で高値を示します。
	ナトリウム	体の中の水分代謝に関わるミネラル成分で、一定のバランスを保ちながら細胞の水分調節をしています。嘔吐、下痢、腎機能障害などで異常値を示します。
	カリウム	